

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 4月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090500024
法人名	医療法人社団田口会
事業所名	グループホームコアⅡ
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1 (電話) 0276-30-3011

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月28日

## 【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	電気使用料 50円/1日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	700 円	おやつ 円

### (4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 慶仁会 城山病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療機関や飲食店、まちの駅等を近隣にもつ、郊外に位置した事業所である。管理者を含む職員全体の年齢層が若く、活気に溢れた雰囲気の中で、型にはまらない日常生活援助を行っている。また、地域住民との交流の促進や事業所の周知徹底を図るため、地区組織や地域住民との協働活動の展開に力を注いでいる。開設後半年と間もないながら、母体組織の理念やシステム等を踏襲しつつ、事業所の運営に積極的かつ柔軟な考え方を有する運営者と一体となり、事業所のあるべき姿を職員全員で模索している。母体組織には病院があり、入居者、家族は医療面で安心している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。自己評価の事後措置として、入居者への対応の仕方の見直しを始め、食堂兼居間の改装、記録様式の変更等できるところから取り組み、改善を行っている。また、地域との協働活動の展開を目指し、地区組織への申し入れや地域住民等が集まるイベントへの参加等、積極的に行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員1人ひとりと話し合いを持つ機会を設けたり、日々の業務の中での職員の気づきを聴取して、今回の外部調査に臨んでいる。運営者側にも意見を求め、入居者のケアに関することから事業所の管理・運営等に関することまで、体系的な取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーへの積極的な呼びかけを行っている。しかしながら、これまで会議を開いた回数は2回に留まり、事業所の運営に関して建設的な意見交換をする場になるまでには至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族や入居者の状況に応じて、来所の際や電話・通知等の方法で家族との情報交換及び意見の聴取等を行っている。また、入居者及び家族のニーズを広汎的・効果的に把握するため、意見箱の設置を検討している。寄せられた意見や要望に対しては、実現可能なものは優先順位をつけて実行に移し、不可能なものについては管理者が説明を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在、区長を始め、地域住民にも交流や協働活動等の実現に向けた積極的な呼びかけを行っている。具体的には、地域の廃品回収への参加や事業所のクリスマス会等の行事への招待を計画している。地域に出ていくことと、地域住民を迎え入れることを通して、地域との信頼関係や協力体制を構築することを目指している。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設後半年と新しい事業所であるが、母体組織の考え方を踏襲し、認知症であっても家庭的な雰囲気の中で自由に生活を送れることを理念として掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ったケアが提供できるよう、会議の際に入居者との接し方や話し方等について触れる機会を設けている。職員1人ひとりが自らの行動を振り返り、理念を反映したケアができるように、日々の職務に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長を始め地域住民に、交流や協働活動等の実現に向けた積極的な呼びかけを行っている。現在、地域の廃品回収への参加や事業所のクリスマス会等行事への招待を計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員1人ひとりと話し合いを持つ機会を設けたり、日々の業務の中での職員の気づきを聴取して、今回の外部調査に臨んでいる。自己評価においては、定期的な実施し、入居者への対応の仕方や事業所のハード面の改装等、できるところから着実に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者および入居者家族を始め、地区の民生委員、市職員への積極的な呼びかけを行っている。これまで2回の会議を行って来たが、事業所の運営に関して建設的な意見交換をする場になるまでには至っていない。	○	地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、参加メンバーから率直な意見をひきだし、具体的に活かしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に市の元気お年寄り課と連絡を取り合い、事業所の活動や部屋の空き状況等を報告している。事業所として、市とコミュニケーションを図る機会を設けてきているが、課題に協働して取り組む等の関係までには至っていない。	○	事業所の考えや実態を今後も伝えるとともに、市との情報交換により、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所した際、生活の様子や健康状態等を報告している。その他、電話をしたり、通知や請求書を送付する時に併せて報告している。疾病増悪や事故等の緊急時には、家族の了承の下、事後報告という形で詳細に説明を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時を始め、電話や通院等の時に要望を把握するように努めている。現在、意見箱の設置を検討している。家族より出された意見や要望に対しては、実現可能なものは優先順位をつけて実行に移し、不可能なものについては管理者が説明を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動する場合は、説明する場合と、不穏状態を引き起こすことを考慮してしない場合と、入居者の性格や状況に応じて行っている。運営者側は、母体組織の都合による異動は極力避けているが、職員が離職や異動する場合は申し送りを徹底させ、入居者に対するケアの質が低下しないよう留意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて、法人内外の研修会や勉強会等に職員は交代で参加している。運営者及び管理者は、職員のレベルアップを念頭においた運営を重視しており、研修等の情報は職員間に滞りなく流れ、参加者の報告書を職員全員に回覧することで知識や認識の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会への参加を始め、系列の施設の職員との交流を行っている。現在、他のグループホームの見学や職員交換等の組織的な活動を始め、気の合う仲間づくり、親交や交流を深めることを目指した職員個人での取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、本人および家族に事業所の特徴や生活等に関する説明を行っている。入居後、不安の強い入居者には重点的に寄り添い、家族への報告も密に行っている。開設して半年経過し、新旧の入居者が混在しているが、お互いに共存していけるための雰囲気づくり、人間関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、事業所がある地域の歴史的な話や地理を始め、昔の歌謡曲、料理等を教わる機会が多い。入居者との関わりをとおして、自分の成長や新たな一面に気づかされる場面が多々あり、感謝と尊敬の念をもって接することを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者1人ひとりに意見を求め、レクリエーションの内容や買い物行き先等を決めている。自己表現が難しい場合は、選択肢をいくつか提示し、選べるように対応している。また、職員全員で入居者のニーズについて検討し、より入居者本位の生活ができるような取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者1人ひとりの介護計画について、職員全員で検討し、サービス計画担当がそれに基づいた計画書を作成している。個人の推測になってしまわないように、アセスメントから評価に至るまで、職員全員で検討することにより客観性を担保している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の頻度でモニタリングし、入居者1人ひとりの一連の計画について検討を行っている。状態変化の緩慢な入居者も定期的に計画を見直し、家族の要望や意見も取り入れながら修正を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃から病院の医師及び看護師と連携を図り、入居者の健康管理や疾病の重篤化の予防等を行っている。また、隔日に透析を受けている入居者に対し、事業所の看護師2名がかかりつけ医師と協働してケアに当たっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、5か所の医療機関への定期受診を行っており、希望があれば歯科や眼科等の専門機関への受診も可能である。事業所の看護師2名を中心に、日頃の入居者1人ひとりの状態を詳細に各かかりつけ医に報告していることから、入居者は的確かつ迅速な医療サービスを受けることが出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日に1回の頻度で血圧、体温等のバイタルサインの測定、及び水分出納や食事量を把握し、疾病の重度化や急変に対応している。また、緊急の入院やターミナル等においては、然るべき時に家族に報告し、十分な説明を行った上で同意を得ることを職員全員が認識している。現在、早い時期から家族等と話し合いの機会を持ち、ケアの方向性を検討する体制づくりに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言動については、管理者及び職員同士で気になる点を指摘したり、話し合いを行う機会を設けている。入居者の記録物は、事務室の鍵のかかる棚で管理し、記録や閲覧する際も机の上に放置すること等の無いように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は特に無く、入居者のニーズに沿って午前中は体を動かす活動を行ったり、午後はドライブに出掛ける等をしている。入居者個々の生活スタイルを守るために、他の入居者のペースを気にさせない、全体の共存を目指しながらも個が生きることを念頭に置いたケアを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に応じて、調理や配膳・下膳、テーブル拭き等を行ってもらっている。食事は、入居者の状態に応じて調理形態や食材の形状を変え、無理なく美味しく食べられる工夫を行っている。また、入居者の好きな演歌歌手の歌をBGMにする等、楽しく食事が摂れる雰囲気づくりにも努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は火・木・土となっているが、要望があれば毎日入浴することが可能である。入浴時間も自由である。入居者の意向を伺い、拒否した場合には時間をずらして再度声かけを行ったり、体や足を拭く等の対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、おしぼりたたみ等の家事を始め、レクリエーション、団欒時の会話等の際に、入居者1人ひとりの特技等が活かされることを行ってもらっている。できないことへの失望感や失敗したときの羞恥心等への対応も考慮した上で、達成感や役割意識を感じられる取り組みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、市内の神社へのお参り、隣町の観光名所見学を兼ねたドライブ等を行っている。入居者のニーズに沿った外出支援に併せて、季節感を感じてもらったり、地域住民との交流を図ることを外出の目的に置いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全館施錠を開放している。17時以降は防犯と安全確保のため施錠している。入居者の不意の外出を避けるため、共有スペースの家具の配置を工夫したり、玄関にセンサーを設置する等の取り組みを行っている。また、入居者の言動から外出の欲求の強さを把握して対応を徹底することを、職員一同で行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所単独での防災訓練を、全入居者および職員にて半年に1回の頻度で行っている。消火器、投てき用消火器を常備し、火災時の応急体制をセコムと結んでいる。また、迅速な連絡・情報共有ができるように緊急連絡網を作成したり、的確な判断ができるように訓練を行っている。	○	災害時の対応強化のため、地域住民や地区組織、消防署や警察等と連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する理解を求めることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の水分出納バランスや食事摂取量は、日々チェックし、記録している。記録物を入居者のかかりつけ医や母体組織の管理栄養士に見てもらい、的確な助言に基づいた栄養支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの天井は高く、廊下も広いために開放的で、のびのびと生活できる雰囲気をつくり出している。洗面所やトイレ、浴室は限られたスペースでありながら、入居者が利用し易い位置に手すりをつけたり、物品を配置する等の工夫が見られた。また、事業所内での感染予防のため、廊下と居間の奥の2か所に除菌装置を設置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用していた家具や小物が持ち込まれ、壁にはレクリエーションで作った作品や家族の写真等が飾られ、入居者個々が過ごし易い居室空間を作り出している。家族が来所した際に、入居者と話をするスペースは十分確保されており、事業所が用意している簡易ベッドで宿泊することも可能である。		